

現 行	改正案	備 考
<p>7. 持続可能な経営の考え方（経営戦略）</p> <p>円山動物園は、1951年（昭和26年）に無料施設として開園し、翌年7月から有料化した。当初は赤字経営が続いていた。その後、1955年（昭和30年）から4回にわたる入園料の値上げを行い、1972年度（昭和47年度）までは職員人件費を除く経常的収支の黒字が続いたが、1973年度（昭和48年度）から中学生以下の無料化を行ったことにより、その後は経常的収支の黒字を出せたのは4度の決算のみで、1979年度（昭和54年度）以降は、常に経常的収支は赤字となっている。</p> <p>そもそも円山動物園は設立当初から、あらかじめ入園料のみで収支を賄うべき施設として設計されたものではなく、その社会的存在意義（情操教育、環境教育、種の保存等）のため税金を投入して運営する社会教育施設として運営されてきた側面からも入園料は民間の動物園や水族館に比べ低価格に設定され、中学生以下、65歳以上、障がい者等への入園料無料化を行ってきた。</p> <p>2005年度（平成17年度）決算の臨時的経費（新規施設整備）を除いた経常的収支は、経常収入約1億6千万円、経常支出約4億7千万円（ただし職員の人件費約3億円を除く）という大幅な赤字経営となっている。</p> <p>しかし、札幌市の財政状況そのものが厳しい中、これまで通り税金を投入することは困難と考えるべきである。一方で、原油価格の高騰など外部経営環境の変化に対応しつつ、老朽化した施設の維持管理、更新を行っていく必要があり、このままでは新たな魅力アップのための投資はもちろん、動物園を将来にわたって維持継続していくことすら危ぶまれる状況である。</p> <p>2007年（平成19年）3月に策定した基本構想においては、</p>	<p>7. 持続可能な経営戦略</p> <p>(1) 計画内容</p> <p>円山動物園は、設立当初から、あらかじめ入園料のみで収支を賄うべき施設として設計されたものではなく、その社会的存在意義（情操教育、環境教育、種の保存等）のため税金を投入して運営する社会教育施設として運営されてきた側面からも入園料は民間の動物園や水族館に比べ低価格に設定され、中学生以下、65歳以上、障がい者等への入園料無料化を行ってきました。</p> <p>しかし、札幌市の厳しい財政状況の中、社会経済環境の変化に対応しつつ、「人と動物と環境の絆づくりの場」として、次世代にわたり円山動物園を存続させていけるよう、次の3点を目標に経営します。</p> <p>ア 職員の人件費を除いた経常的収支の均衡を目指します。</p> <p>イ 経常的収入増加のため、年間入園者数100万人を目指すとともに、有料入園者数の増加等に取り組みます。</p> <p>ウ 経常的支出を平成17年度と比較して10%削減することを目指し、効率的な経営を行います。</p>	

<p>将来にわたって持続可能な経営ができるよう、まず現在の脆弱な経営基盤を再建し、「人と動物と環境の絆づくりの場」として世代を越えて存続させていけるよう、以下のとおり経営の方向性を示している。</p> <p>● 基礎収支構造の均衡を目指して</p> <p>持続可能経営の目安として、まずは職員の人件費を除いた基礎収支構造の均衡（収入と支出のバランス）を実現する。</p> <p>【数値目標】2011年度（平成23年度）決算時までを集中取組期間とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 入園者数 年間100万人を目指します ➤ 経常的収入 2005年度（平成17年度）に比べ倍増を目指します ➤ 経常的支出 2005年度（平成17年度）に比べ30%の削減を目指します <p>※ただし職員の人件費を除く。また、削減率は固定化せず収支均衡を優先する。</p>		
	<p>(2) 成果指標</p> <p>平成28年度までに年間入園者数100万人・経常的収支の均衡・経常的支出10%削減（平成17年度比）を目指します。</p>	

<p>(1) 入園者数 100 万人に向けた集客の取り組み</p> <p>入園者数の増加は単に収益面での効果ばかりでなく、環境教育施設としての啓発効果を押し上げるうえで重要であり、以下の複合的な取り組みによってこれを実現する。</p> <p>なお、入園者数は天候や施設新設の有無、人気動物の死亡等によって大きく左右されるが、仮説検証を繰り返しながら毎年 10 万人程度の増加を目標とする。</p> <p>ア 新着動物や高い繁殖技術に基づく出産による集客</p> <p>2006 年度（平成 18 年度）には、ホッキョクグマの赤ちゃん誕生やチンパンジーの赤ちゃんの人工哺育開始が大きな話題となり、入園者数が前年比 25% 増となった。</p> <p>2007 年度（平成 19 年度）は、人気動物であるアジアゾウやライオン、チンパンジーなどの死亡によるマイナス影響も大きかったが、その後のライオン導入、レッサーパンダ導入、ライオンの赤ちゃん誕生などにより集客を取り戻している。</p> <p>今後についても、オランウータンやホッキョクグマ、ユキヒョウなどの希少動物の繁殖に注目が集まっており、大きな集客要因の一つとなっている。</p> <p>イ 新たな展示方法や施設リニューアル（新設・改修）による集客</p> <p>2006 年度（平成 18 年度）には、サル山展望レストハウスの新設により、4,5 月期だけで前年同月比 35% 増となった。円山メソッドを体現したこの施設は、NPO 法人市民 ZOO ネットワークが選定する「エンリッチメント大賞 2006」を受賞</p>	<p>(3) 行動計画</p> <p>① 入園者数 100 万人に向けた集客の取組</p> <p>入園者数の増加は単に収益面での効果だけでなく、環境教育の推進にとっても重要です。</p> <p>入園者数は、天候、景気等に大きく影響されるものですが、次の取組によって、できる限り多くの市民をはじめとする皆さんに繰り返し来園していただくよう取組を進めていきます。</p> <p>ア 高い繁殖技術に基づく集客</p> <p>円山動物園の最大の特徴は、高い繁殖技術を有している点にあります。今後とも種の保存の観点から、動物の繁殖環境を最優先に考え、たくさんの赤ちゃんの出産を成功させ、集客につなげていきます。</p> <p>イ 観光コンテンツ化による集客</p> <p>円山動物園に来園されるうちの約 9 割が札幌市民及び北海道民です。天候の影響を極力回避し、年間入園者数 100 万人を達成するため、道外又は海外からの観光客の皆さんにも来園していただくことが重要です。このため、今後とも様々なメディアを活用して積極的に円山動物園を発信するとともに、「みんなのドキドキ体験」の定番化、雨天時でも楽しめる施設整備、コンテンツの開発、夜の動物園の期間延長等に取り組めます。</p> <p>ウ 冬の動物園開園 PR による集客</p> <p>円山動物園は、4 月から 10 月の間に年間入園者数の 8 割が来園しており、冬期間にどれだけ多くの皆さんに来園していただけるかが入園者数増加の鍵を握っています。</p> <p>こうした中、平成 22 年度に実施したスノーフェスティバル</p>	<p>・現行項目を課題等に合わせて整理</p>
---	---	-------------------------

している。

このように新たな展示施設による集客効果は大きく、2008年度（平成20年度）にオープンしたエゾシカ・オオカミ舎、こども動物園改修、類人猿館改修などをはじめ、今後の施設整備が集客増に大きく関わってくる。（施設整備の詳細は「9. 展示・施設の考え方」参照）

ウ 新たなイベントによる集客

年間イベント数は2005年度（平成17年度）に20件程度であったが、2006年度（平成18年度）及び2007年度（平成19年度）にはその数を70～100件程度まで増やしている。また、夜間開園を含む夜の時間帯を活用したイベント開催日数も3日間から20日間程度まで増やすことで集客に貢献した。2006年度（平成18年度）から新たに始めた日中の体験プログラム「みんなのドキドキ体験」は年間延べ1,500回に達しており、毎週開催している動物病院体験プログラムと合わせて園を代表する人気プログラムとなっている。

このほか、市民やNPOとの共催による「アースデイ」や市民が作品を出展する「芸術祭」などの市民参加型イベントや民間企業とのタイアップによる「夏休み特別展」、「スタンプラリー」などの開催により、低コストで高い集客効果をあげている。（イベントの詳細は「8. 事業展開の考え方」参照）

エ 新たなPR手法による集客

新規イベントや赤ちゃん誕生など話題性の高いコンテンツを最低でも毎週1回は報道機関に対して積極的に情報発信す

では、期間中に約3万人の入園者数があり、アンケート結果から、冬の動物園が開園していることが知られていないこと、冬の動物園も魅力があることが判明しています。

これらのことから、冬期間においても来園者が楽しめるよう、賑わいの演出、施設整備等を行うとともに、冬の動物園を積極的にPRし、集客増を実現します。

るとともに、チラシ、ポスター、ホームページ、ブログパーツ、フリーペーパー、街頭メガビジョンなどあらゆるメディアを活用して周知を図っている。

また、ホームページの充実、携帯サイトの設置、動画配信サイトの設置、飼育員ブログの設置など Web を積極的に活用し、お客様が来園前後に動物やイベントの情報を見ることによりリピーターの増加を狙っている。

あわせて環境教育や学術的価値の高い研究、社会的意義のあるプロジェクトなどを発信していくことにより、単なるレジャー施設ではなく社会的価値の高い「本物の動物園」という認知を広げるためのブランドづくりを行っている。

これらの成果の一例としては、2005 年度（平成 17 年度）までは閑散期だった冬季間（11～翌 3 月期）の入園者数が 40,000 人程度と低迷していたのに対し、「冬の動物園」を積極的に PR した結果、2007 年度（平成 19 年度）には 93,000 人と 132%アップを達成している。（PR の詳細は「8. 事業展開の考え方」参照）

オ 観光ツアー、修学旅行誘致による集客

道外からの集客に向けて、旅行会社に対する積極的な PR を行うとともに、市内を周遊する「まちめぐり系」の旅行企画にも積極的に参加することにより、2007 年度（平成 19 年度）からは東京・大阪・名古屋出発の大手旅行会社による北海道旅行商品の主要施設に採用されるなど、観光施設としての認知拡大を図っている。また、環境教育コンテンツの充実により修学旅行や総合学習などによる集客の増加を狙ってい

<p>る。(誘致の詳細は「8. 事業展開の考え方」参照)</p>		
<p>(2) 経常的収入倍増に向けた取り組み</p> <p>基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005年度(平成17年度)に比べ2011年度(平成23年度)までに経常的収入の倍増を目標とするため、以下の複合的な取り組みによってこれを実現する。</p> <p>ア 年間パスポート料金の検討</p> <p>年間パスポートは現在1,000円で販売しており、2006年(平成18年)に実施した市民アンケート結果からも「安い」という意見が多く、展示施設の新改築や入園者のリピート回数の増加に応じて設定金額の適正化を行う。</p> <p>イ 公共交通とのセット券の販売</p> <p>公共交通機関とのセット券や、入園料と交通機関料金がパ</p>	<p>② 経常的収入の増加に向けた取組</p> <p>経常的収支の均衡を図るため、経常的収入の増加を図ることが最も重要です。</p> <p>これまで、入園料収入の増加、広告料収入の拡大、アニマルファミリー制度等による寄附金収入の拡大を中心に取組を進めてきましたが、経常的収支均衡のため、次の取組により、一層の収入拡大を実現します。</p> <p>ア 入園料の見直し</p> <p>入園料は、大人1回600円、年間パスポート1,000円となっており、他の主な動物園と比較すると、入園料は平均よりやや高く、年間パスポートは相当安く設定されています。</p> <p>今後、アフリカゾーンのオープン時期を目安として、収支均衡を目指す観点、教育施設としての役割を果たす観点、リピート回数等から十分に検討を行い、入園料の見直しを図り</p>	<p>・現行の取組状況等を踏まえ項目を整理</p> <p>・年間パスポートも入園料金体系の1つであり、総合的な検討を実施</p>

ックになった旅行商品などにより、来園を誘引する効果の期待できる入園券の販売促進方法を積極的に実施する。2007年度（平成19年度）には試験的に地下鉄ウィズユーカードとのセット販売商品「ウィ ZOO ユー・パスポート」を販売している。

ウ 広告料収入の拡大

新たな収入源として、園内に広告事業を導入する。2007年度（平成19年度）から実施したパンフレット広告欄、年間パスポート裏面広告、ホームページ広告のほかにも、園内看板の設置や動物舎のネーミングライツ（命名権）など広告可能分野を開発し、安定的な収入確保を図る。

エ 寄付金収入の拡大

円山動物園のイベントやプロジェクトに対する市民・企業等からの寄付を幅広く受け付けるとともに、絶滅危惧種などの特定の動物を企業が支援する形の寄付や、動物園グッズの売上に応じたエサ代支援等の寄付、動物園を応援する動画サイトからのスポンサー寄付など多彩な寄付メニューを実施・拡大する。

オ アニマルファミリー制度

アニマルファミリー制度を2008年（平成20年）4月から導入し、市民がエサ代の一部を会費として負担することにより、その動物に関する情報を定期的に受け取ったり、誕生会などのイベントに参加したりできるようにする。順次、対象

ます。

イ 寄附金収入の拡大

現行の寄附金は、アニマルファミリー制度及び企業活動に基づく寄附が多くを占めています。

アニマルファミリー制度は、市民と動物の絆をつなぐための重要な制度であることから、より多くの市民に支えてもらえるよう制度内容を再構築した上で、積極的にPRを行い、寄附金収入を拡大します。

また、企業からの寄附については、円山動物園に多くの来園者があり、企業の広報活動の場としても有効であることを示しながら積極的にPRし、寄附金収入の拡大を図ります。

ウ 基金の創設

大規模な動物舎建設など、動物園の魅力アップに向けた寄附の窓口として、基金の創設を検討します。

<p>となる動物を拡大し、会員数を増やすことにより安定的な収入を目指す。</p> <p>カ 基金の創設</p> <p>大規模な動物舎建設に向けた寄付の窓口として基金の創設について検討する。</p>		
<p>(3) 経常的支出 30%削減に向けた取り組み</p> <p>基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005年度（平成17年度）に比べ2011年度（平成23年度）までに経常的支出の30%削減を目標とするため、以下の複合的な取り組みによってこれを実現する。</p> <p>ただし、原油価格の高騰やそれに伴う委託料・食料価格の値上げを勘案し、飼育動物の健康管理に支障のない範囲で目標値を調整する場合がある。</p> <p>○ 目標とする年間の経常的支出（人件費・整備費を除く）</p> <p>ア 冬季週休日等の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 来園者が少ない冬季に休園日を設定し、券売や清掃委託業務の経費を削減する。 <p>【削減想定効果】 8,300千円（2009年度） 委託費</p> <p>イ 業務委託の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種維持管理業務の一本化など類似する委託業務の統合等に取り組む。 <p>【削減想定効果】 15,000千円（2008年度～） 委託費</p> <p>※18,19年度 20,000千円 削減済 委託費</p>	<p>③ 経常的支出削減に向けた取組</p> <p>円山動物園ではこれまで、温度設定の変更及び節水による光熱水の削減、エサの一括購入による飼料購入経費の削減、熱帯植物館・昆虫館の閉鎖による光熱水の削減、LED・天然ガスボイラーによる省エネ等により、経常的経費の削減に努めてきました。</p> <p>一方、暖房設備の老朽化に伴い、灯油ボイラーによる集中暖房から天然ガスボイラーによる個別暖房への熱源転換を平成24年度まで段階的に行っていること、アジア・アフリカゾーン建設に伴い、平成26年度までは熱帯動物館も並行して稼働していかなければならないことから、それまでの間は二重に光熱水費がかかることに加え、燃料価格や食糧価格の動向等の他律的な要素や来園者の増加に伴う経費の増加もありますが、今後も省エネの取組をはじめ様々な工夫により効率的に動物園を運営し、平成17年度と比較して経常的経費の10%削減を目指します。</p>	<p>・現行の取組状況を踏まえ項目を整理</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・自動券売機の導入により委託経費を削減する。 【削減想定効果】 2,700 千円 (2009 年度) 委託費 <p>ウ 光熱水費、エサ代等の節約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水循環施設の導入、漏水対策、清掃時の節約により水道代を節約する。 【削減想定効果】 44,000 千円 (2009 年度～) 上下水道 ・省エネ技術の導入、温度設定の変更・機密性向上、暖房不要な動物舎の別棟化により光熱費を節約する。 【削減想定効果】 2,800 千円 (2008 年度～) 重油・灯油代 【削減想定効果】 2,700 千円 (2008 年度～) 電気代 ・企業協賛によるエサの寄付、大量一括購入などにより飼料購入経費を節約する。 【削減想定効果】 25,000 千円 (2007 年度～) エサ代 <p>エ 老朽、不用施設の廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱帯植物館、昆虫館、みかん温室を解体し、別施設に機能を移転することにより維持管理費・光熱費を節約する。 【削減想定効果】 9,500 千円 (2009 年度～) 重油・灯油代 		
<p>(4) 基本構想を支える経営体制の確立</p> <p>基本構想の理念を実現し、経営に関する数値目標を着実に達成していくには、これまで以上に強力なマネジメント体制と、積極果敢で柔軟な組織文化の醸成が必要であるため、以下の取り組みを行う。</p> <p>また、経営状況を常に市民に公開し、経営主体についても一定の条件下で抜本的な改革を行う。</p>	<p>④ 基本構想を支える経営体制の確立</p> <p>基本構想の理念を実現し、経営に関する数値目標を着実に達成していくには、基本計画に掲げる各項目を継続して実施していくことが重要であり、次の取組により、持続可能な体制づくりを実現します。</p> <p>また、経営状況は常に市民に公開します。</p> <p>ア 経営体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の取組状況を踏まえ項目を整理

ア 園長のリーダーシップ

2006年度（平成18年度）から円山動物園としては初めて事務職の園長を配置し、経営強化にあたった。動物園の経営にあたっては、数値目標を公開し、園長の執行責任の下でその管理を行う。また、経営及び環境教育の強化策として2007年度（平成19年度）から経営管理課と飼育展示課に体制を改変し、顧客管理やイベント管理、サービス品質管理をより明確化した。

イ 職員参加型プロジェクト

積極果敢で柔軟な組織文化の醸成のためには、飼育員をはじめとする職員が積極的に経営企画に参加することが重要である。そこで、あらゆる機会に職員の意見やアイデアを積極的に受け入れていくほか、2006年度（平成18年度）には基本構想の実現に向けた「園内検討会議」や「冬の動物園プロジェクト」を設置し、職員参加型の取り組みを行っている。

ウ 飼育グループ制

園内における飼育技術の伝承及び展示企画の質向上と、緊急時における飼育員の支援体制確立のため、飼育員にグループ制を取り入れることとし、ガイドボランティアと一体となったチームづくりを行い、入園者サービスの向上に努める。

2007年度（平成19年度）には「こども動物園」においてボランティアと一体となった環境教育チームを試行実施し、これをモデルとして今後も拡大していく。

札幌市の厳しい財政状況の中、基本計画を進めるため、大学、企業、NPO、市民等と連携して各種事業を企画し、運営します。また、将来的な指定管理者制度の活用の可能性や特別会計への移行について検討していきます。

イ 飼育体制の強化

飼育グループ制をさらに発展させ、飼育技術の伝承及び展示企画の向上を図り、「みんなのドキドキ体験」の定番化等のサービスアップを実現するとともに、繁殖調整と環境教育の推進に関する機能強化を実現します。

また、職員のスキルアップを図るための手法を検討するとともに、専門性確保のため、大学等の研究機関と情報交換を行う仕組みづくりを実現します。

ウ 「市民による市民のための動物園」の実現

市民動物園会議を継続開催し、経営状況等の運営状況を報告した上で議論を行い、経営改善を図るとともに、基本構想に沿った動物園運営を確保します。

また、入園者数、来園者アンケート結果等の経営状況は常にホームページ上で公開し、経営の透明性を確保するとともに、閲覧者等から意見を募集するなど、「市民による市民のための動物園」を実現します。

エ 人材育成

動物園を支える人材の育成に適正な投資を行い、産学官の交流や研究事業、研修や学会への参加など動物園に関わる多くの人を巻き込んでいくとともに、その成果を論文の発表、様々な講演会等への講師派遣、執筆活動などにより還元する。

2006年度（平成18年度）には猛禽類の保護・繁殖に取り組むサンディエゴ動物園（アメリカ）等に飼育員の派遣研修を行ったほか、2007年度（平成19年度）にはオランウータンの繁殖・飼育技術を学ぶためタマンサファリ動物園（インドネシア）に飼育員を派遣している。

また、2007年度（平成19年度）からこれまでの研究成果である学会発表抄録をホームページで公開し、市民・研究者らと共有した。

オ 市民動物園会議

基本構想の理念が守られ目標に沿った経営ができているか、計画どおりに施設整備が進んでいるかを市民の目でチェックするため経常的な外部委員会として「市民動物園会議」を2007年（平成19年）8月に設置した。

○ 市民動物園委員名簿

※委員長及び職務代理者以下、五十音順（敬称略／所属・役職は就任当時のもの）

○ 開催概要

<p>2007年8月23日 委員委嘱</p> <p>2007年8月30日 第1回 基本構想の概要説明 と質疑、委員長選出</p> <p>2007年11月30日 第2回 基本計画草案の検討</p> <p>2008年3月1日 第3回 基本計画（案）の審議</p> <p>カ 指定管理者制度、飼育職の検討</p> <p>円山動物園の経営改革を集中的に行い、健全な経営体質に近づけた時点で、特別会計制度の導入や、運営主体についても指定管理者制度の活用等の検討を行う。また、その際には、飼育スタッフについても、柔軟に大卒や獣医師、動物生態学、展示の専門家などの資格を有する者を採用できるよう雇用形態を工夫するとともに、他の動物園との人事交流を可能とする方策についても併せて検討する。</p>		
---	--	--

現 行	改正案	備 考
<p>8. 事業展開の考え方（ソフト事業）</p> <p>事業展開にあたっては、以下のような円山動物園ならではの差別化と好循環サイクルを意識した取り組みを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「お客様を惹きつける」×「お客様にメッセージを伝える」＝効果的な事業展開</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ お客様を惹きつける好循環サイクル ○ お客様にメッセージを伝える好循環サイクル <p>これらの好循環サイクルを融合させながら、「惹きつけて、メッセージを伝える」ことを基調としつつ、より具体的に円山動物園の新たな魅力を発見し、新たな客層を対象とした取り組みを行う。また、これまでにない新たな PRを進め、より深く学べる仕組みをつくることにより、お客様から「欠かせない存在」として認知されるよう、単なる集客性や目新しさに左右されない「本物の動物園」を訴求するブランドづくりを行う。</p>	<p>8. ソフト事業の展開</p> <p>(1) 計画内容</p> <p>ソフト事業を展開するにあたっては、環境教育の推進、札幌市の施策のショーウィンドウ、新規客層の開拓といった要素を考慮しつつ、楽しい体験や新しい体験から、楽しい学びや新しい学びが得られるよう工夫します。</p> <p>また、これによって、他園との差別化を図り、市民や観光客から、「欠かせない存在」として認知されるよう、「円山らしさ」を追求し、「円山ブランド」を確立していきます。</p> <p>イベントの実施にあたっては、市民ボランティアや企業協賛などを活用し、少ない経費で最大限の効果をあげることを目指します。</p>	
	<p>(2) 成果指標</p> <p>季節に合わせた各イベントについて、満足度 80%を目指します。</p>	
<p>(1) 季節を感じさせる積極的なプロモーション展開</p> <p>一年を通じて園内で四季の移り変わりを感じながら動物園を楽しんでもらえるよう、季節に合せたプロモーションを行う。</p> <p>季節ごとの楽しみ方を提案するとともに、ホームページにおいてもバナーの変更や特集ページの掲載を行い演出</p>	<p>(3) 行動計画</p> <p>① 季節を感じさせる積極的なプロモーションの展開</p> <p>1 年を通じて園内で四季の移り変わりを感じながら動物園を楽しんでもらえるよう、季節に合わせたイベントを実施します。</p> <p>ホームページ、動物園だより、園内フラッグなどにおい</p>	<p>・フラッグを追記</p>

現 行	改正案	備 考
<p>する。(18年度～)</p> <p>〈季節ごとのテーマ〉</p> <p>春 花見・芝生でのピクニックの提案</p> <p>夏 納涼イベントと夜の動物園</p> <p>秋 紅葉と樹木紹介</p> <p>冬 北方圏動物の紹介とイルミネーション・雪遊び</p>	<p>て季節感を感じることができるよう演出・PRし、リピーターの増加を図ります。</p>	
<p>(2) 夜の動物園のプロモーション</p> <p>夜行性動物の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝える。また、普段活用してない夜の時間帯を有効活用し魅力アップ、集客につなげる。(18年度～)</p> <p>〈イベント名〉</p> <p>夜の動物園</p>	<p>② 夜の動物園のプロモーション</p> <p>夜行性動物の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝えるとともに、魅力アップを図り集客につなげるため、夜間開園を実施します(継続)。来園者の動向や動物への影響を考慮した上で、実施期間を増やすための検討を行います。</p> <p>夜の動物園での動物達の生態を伝えるための説明を充実します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間開園期間の日数増を追記 ・説明表示の充実を追記
<p>(3) 冬の動物園のプロモーション</p> <p>ホッキョクグマやユキヒョウなど北方圏の寒い地域に生息する動物たちが、いきいきと行動する冬の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝える。</p> <p>また、集客が低迷する冬季の魅力開発を行い、集客につなげる。(18年度～)</p> <p>〈展開事例〉</p> <p>PRポスター・看板、広報誌無料クーポン、冬のイベント</p>	<p>③ 冬の動物園のプロモーション</p> <p>ホッキョクグマやユキヒョウなど北方圏の寒い地域に生息する動物たちが生き生きと行動する冬の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝えます。</p> <p>また、冬の動物園開園について、メディアやイベント開催を通じて積極的に宣伝するとともに、園内に大規模なシンボルツリーを設置することにより、話題性を確保し、集客増につなげていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアやイベントを通じたプロモーション、シンボルツリー設置を追記
<p>(4) 提案型イベントによる新たな魅力の開発</p> <p>園内で行われるイベントは、職員だけで企画しているとマンネリ化を生むため、新たな視点でこれまでにないイベ</p>	<p>④ 提案型イベントによる新たな魅力の開発</p> <p>環境教育の推進、札幌市の施策のショーウィンドウ、新規客層の開拓に資するものについては、他部局、民間企業、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市の施策のショーウィンドウとしての役割を追

現 行	改正案	備 考
<p>ントを企画するべく民間企業や NPO など多様なイベント主体からの提案を受け入れ、円山動物園の新たな魅力を開発する。(18年度～)</p> <p>〈実施例〉 動物絵本の読み聞かせ、まるまるアニマル人形劇</p>	<p>NPO 等の多様なイベント主体からの提案に基づきイベントを実施し、円山動物園の新たな魅力を発信します。</p> <p>円山動物園には年間を通じて多くの入園者があり、一定の広報効果が得られると考えられることから、関係部局に対し、札幌市の施策PRの場として活用するよう呼びかけます。</p>	記
<p>(5) 宿泊体験型イベントの実施</p> <p>夏休み、冬休みに宿泊体験型の学習イベントを実施し、通常では見ることのできない夜・早朝の動物の生態を探り知識を深め、飼育員と一緒に飼育体験をして動物と接する喜びや驚きを伝え、さらに食事に際しては動物と関連した食育を行う。(18年度～)</p> <p>〈イベント名〉 ナイトキャンプ (JTB北海道主催)</p>	<p>⑤ 宿泊体験型イベントの実施</p> <p>夜間・早朝の動物の生態を探り知識を深めるとともに、飼育員と一緒に飼育体験をして動物と接する喜びや驚きを伝えるため、夏休み、冬休みに宿泊体験型の学習イベントを実施します。</p> <p>宿泊体験のための施設整備について検討します。</p>	
	<p>⑥ 子供向け体験イベントの実施</p> <p>子供が、動物園を通じて社会体験・職業体験を行い、動物園が様々な仕事に支えられていることを実感するとともに、働くことの楽しさや大切さ、世の中の仕組みを学ぶことを目的として、「Kids Zoo Town」、「1日飼育係」を実施します。</p> <p>また、親子の思い出づくり、生物多様性の大切さ等を伝えるため、親子昆虫観察会等のイベントを実施します。</p>	<p>・新規事業等を他の項目に合わせて整理</p>
<p>(6) 大人向け体験イベントの実施</p> <p>「大人も子どもも楽しめる動物園」を目指して、これま</p>	<p>⑦ 大人向け体験イベントの実施</p> <p>「大人も子どもも楽しめる動物園」を目指し、憧れの飼</p>	<p>・スムーズシア、クリスマスナ</p>

現 行	改正案	備 考
<p>で「子ども」を対象としたイベントであった「一日飼育係」について、新たに大人をターゲットとして行う。</p> <p>憧れの飼育員という仕事を体験したり、動物と間近で触れ合ったりしながら、癒しを求める大人が、子どもたちに遠慮せず楽しめるプログラムとする。(18年度～)</p> <p><イベント名> 大人の一日飼育体験</p>	<p>育員という仕事を体験するイベントとして「大人の一日飼育体験」を実施するとともに、動物と間近で触れ合いながら、癒しを求める大人や、夫婦・カップルでも楽しめるイベントとして、「スミージャZOOナイト」、「恋人たちのクリスマスナイトZOO」を実施します(継続)。</p> <p>参加者の意見等も踏まえ、プログラム内容の充実や実施回数の増加について検討します。</p>	<p>イトを追記(⑦の項目廃止)</p>
<p>(7) 新規イベントによる新たな客層の開発</p> <p>これまで動物園にとって疎遠だった客層を対象とし、閉園後の夜の動物園を活用したイベントを開発する。特に「環境教育の拠点」「大人も楽しめる動物園」をアピールするため、環境に関心の高い大人で、かつ女性を中心に新しいイベントに敏感な20～30代や、趣味やレクリエーションに時間とお金をかけられる50～60代を対象に、夫婦やカップルでも楽しめるイベントを目指す。(18年度～)</p> <p><イベント名> 円山ZOO LOHASナイト、恋人たちのクリスマスナイトZOO</p>	<p>⑧ 新規イベントによる新たな客層の開発</p> <p>現時点では新規イベントが具体化していないため、項目を廃止</p>	<p>・項目廃止</p>
<p>(8) シニア層を対象とした市民参加型イベントの開発</p> <p>地域に根ざした歴史ある動物園として幅広い年代層の市民が参加し支持される動物園を目指して、特にシニア層を対象としたイベントを開発する。</p> <p>園内で活動し、その成果を発表することと、若者からシニアまで長年にわたって親しむことができる点から、アートをテーマとして行う。(18年度～)</p>	<p>⑨ シニア層を対象とした市民参加型イベントの開発</p> <p>大人向けイベントに集約し、「シニア向け」イベントとしては廃止。アートをテーマとしたイベントとしては、「3⑥市民芸術文化のメッセージを発信するイベント」の中で検討</p>	<p>・項目廃止</p>

現 行	改正案	備 考
<p><イベント名> 円山動物園芸術祭</p>		
<p>(9) 親子向け体験イベントの実施</p> <p>新規客層の開拓のため、新たに「親子での体験」をターゲットとしてイベントを行う。</p> <p>職員だけでは発見できない円山動物園の魅力について市民、NPO、企業から提案を受け、協働型で開催する。世代間の交流や親子の思い出づくり、特に父子交流に着目した自然探検・昆虫探検を行う。(18年度～)</p> <p><展開事例> 円山自然塾、円山昆虫探険隊</p>	<p>⑩ 親子向け体験イベントの実施</p> <p>子供向け体験イベントに集約するため項目廃止</p>	<p>・項目廃止</p>
<p>(10) 都会の癒しの場・レストスペースの創設</p> <p>札幌ならではの「都会の動物園」の新たな楽しみ方として、動物好きに限らず、休日にふと立ち寄って自然の中で快適にのんびり過ごせる空間を創設することにより、子どもだけでなく大人にとっても癒しの場としてビジネスマン・OL層に客層を広げることを目標とする。施設面では、動物を眺めながら、長時間リラックスして滞在できるレストスペースを確保するとともに、園内にカフェやコンビニエンスストアを誘致し快適に長時間滞在できる環境を整える。(19年度～)</p> <p><想定する過ごし方></p> <p>休日にのんびりニホンザルを見ながら読書、コーヒーを片手にウッドデッキに座ってエゾシカ観察、芝生やキリンの前のベンチに座ってちょっとしたピクニック、ビオトー</p>	<p>⑪ 都会の癒しの場・レストスペースの創設<small>※施設整備は9で計上</small></p> <p>札幌ならではの「都会の動物園」として、自然の中で快適にのんびり過ごす楽しみ方を提案します。</p> <p>また、アフリカ館等の施設整備に際しては、動物を眺めながら、長時間リラックスして滞在できるレストスペースを確保するとともに、園内に遊具広場を設置し、来園者が快適に長時間滞在できる環境を整備します。</p>	<p>・アフリカ館整備の考え方を追記</p>

現 行	改正案	備 考
<p>プで昆虫観察しながら森林浴を兼ねて散歩 等</p>		
<p>(11) 観光ツアーの誘致提案</p> <p>円山動物園を札幌の観光素材として再構築し観光振興に役立てるため、「解説付き感動体験型ツアー」や「夜の動物園パーティプラン」など実験的なイベントを行い、実現可能性を検証する。旅行会社に対しては積極的に観光ツアー誘致を提案する。</p> <p>特に東京・名古屋・大阪からの送客を目指し、将来的には「冬の動物園」を目玉にアジア圏からの送客を獲得することを目指す。(18年度～)</p> <p>＜観光素材となりうるイベント＞</p> <p>みんなのドキドキ体験、飼育員セミナー&裏側探険、円山ZOO LOHASナイト、ナイトキャンプ、大人の一日飼育係、スノーフェスティバル</p>	<p>⑫ 観光コンテンツとしての魅力発信</p> <p>旅行会社が円山動物園を魅力的な観光コンテンツとして認識し、首都圏や海外から送客するとともに、観光客の誘客を目指し、「みんなのドキドキ体験」の定番化、「夜の動物園」の期間延長、「スノーフェスティバル」の充実等、観光コンテンツとして有効な事業となるよう検討を行い、プロモーションを実施します。</p> <p>ホームページについて、外国語版の充実を図り、海外からの観光客に対し、魅力を発信します。</p> <p>また、ホームページ等により、雨天時や冬期間の動物園の楽しみ方を提案します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ツアーの誘致でなく、観光コンテンツとしての事業化、PRをすることを記載
<p>(12) Webを活用した新たなプロモーションの展開</p> <p>来園前後の情報提供や告知を充実し、より動物への興味を喚起するとともに、ブログや動画などロコミ的要素の強い情報を活用することにより、新たな顧客の獲得とリピーターの定着を目指す。(18年度～)</p> <p>＜具体的な取組＞</p> <p>公式サイトのリニューアル、「ようこそさっぽろ」との連携、Maruyama Zoo Channel の運用、飼育員ブログの運用</p>	<p>⑬ 各種メディアを活用したプロモーションの展開</p> <p>ホームページやブログについて、運営体制の改善を図りつつ、常に最新の情報を伝えるとともに、生まれたての赤ちゃんの動画を配信するなどの動画の積極的な活用により、円山ファンを増やします。</p> <p>駅前地下歩行空間等のパブリックスペースを活用し、映像コンテンツを配信することによって、効果的なプロモーションを展開します。</p> <p>ライブ映像の配信について検討します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信の具体例を追記 ・地下歩行空間の活用を追記 ・ライブ映像配信を追記
<p>(13) 新たなメディアを活用したプロモーションの展開</p> <p>円山動物園の知名度を高めブランドを向上していくた</p>	<p>⑭ 新たなメディアを活用したプロモーションの展開</p> <p>⑫に統合したため廃止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・項目廃止

現 行	改正案	備 考
<p>めには、動物園本来の活動の充実が最も重要であるが、これに加え多様化するメディア（媒体）に対応した取り組みが必要となるため、既存の新聞・テレビ・雑誌・広報誌・ホームページだけでなく、DVD や出版物など新たなメディアについても積極的に取り組んでいく。（18年度～）</p> <p>〈想定する展開〉</p> <p>プロモーションDVDの制作、絵本・写真集、フリーペーパー、書籍化・ドラマ化・映画化</p>		
<p>(14) 教材ワークブック開発による小学校の総合学習誘致</p> <p>動物の生態を通じて楽しみながら、命の大切さや環境メッセージを伝えるため、小学生（低学年・高学年の2種）を対象として、主に総合学習での活用を考えた教材を教員、研究者らと共同開発する。学習効果を高めるとともに「動物園＝環境教育の場」という認知を広げる。（19年度）</p>	<p>⑮ 環境教育メニュー等の充実による総合学習等の誘致</p> <p>動物の生態を通じて楽しみながら、命の大切さや環境メッセージを伝えるため、主に小学生や中学生を対象として、総合学習などの授業での活用を考えたメニューや教材をホームページ上で公開するとともに、各学校に対し、授業への活用をPRします。</p> <p>環境教育メニューや教材ワークブックは、利用者の意見を聞きながら随時更新し、内容の充実を図ります。</p>	<p>・環境教育メニューの作成、各学校へのPR・内容の充実を追記</p>
<p>(15) 修学旅行誘致の拡大</p> <p>環境教育の拠点であり生物多様性確保の基地でもある円山動物園を教育の場として活用するとともに、集客産業の一環として本州からの修学旅行誘致を推進する素材として積極的にプロモーションしていく。（19年度～）</p> <p>〈具体的な誘致策〉</p> <p>修学旅行用に園内の教育プログラムをまとめ、東京事務所を通じて誘致活動を行う。</p>	<p>⑯ 修学旅行誘致の拡大</p> <p>円山動物園では、環境教育の拠点として、園内環境教材化の取組や生物多様性確保の取組を進めており、また、中学・高校修学旅行用ワークブックを作成していることから、教育の場としての活用及び新規顧客の開拓の観点を踏まえ、関係部局と連携しながら、本州からの修学旅行の誘致活動を行います。</p>	<p>・修旅WBの活用・観光との連携による誘致を追記</p>
<p>(16) 市民ボランティアの活動分野の拡大</p>	<p>⑰ 市民ボランティアの活動分野の拡大</p>	

現 行	改正案	備 考
<p>「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を目指し、これまでも行ってきた動物園ガイドボランティアをより充実させるとともに、イベント、ふれあい指導、園芸・修繕、清掃等の活動全般に市民ボランティアを拡大させていく。(19年度～)</p>	<p>「3⑦市民ボランティア活動の発信」で掲載のため廃止</p>	<p>・項目廃止</p>
<p>(17) 動物の魅力をより深く伝えるための取り組み</p> <p>動物の魅力を再発見できる「動物特集」や、飼育員自らが語り手となるセミナーなどを通じて、動物の魅力をより深く伝えていくことにより、楽しみながら学べる機会を増やす。(18年度～)</p> <p>〈展開事例〉</p> <p>飼育員の動物講座、文化講座・区民講座の園内開催、飼育員による出前講座、飼育員のドキドキトーク、チンパンジー特集「レディウィーク」、は虫類特集「スネークアート展」</p>	<p>⑱ 動物の魅力をより深く伝えるための取組</p> <p>動物の魅力を再発見できる「動物特集ウィーク」、飼育員自らが語り手となるセミナー、動物講座等を動物園の内外で開催することを通じて、動物の魅力をより深く伝えていくことにより、楽しみながら学べる機会を増やします。</p>	<p>・動物講座を追記</p>

現 行	改正案	備 考
<p>9. 展示・施設の考え方（施設整備と動物管理）</p> <p>展示方法や施設整備については、長期間にわたって円山動物園のスタンスを表現する重要な要素であることから、以下の方向性にしたがって、計画的に取り組む。</p> <p>○ 円山エリアにおける一体的な空間創出</p> <p>円山動物園を自然豊かな円山エリアの中核施設としてとらえ、周辺にある施設や設備、自然が相互に存在価値を高めあうような相乗効果を目指す。</p> <p>このことにより、円山動物園が円山エリアの誇りとなるような施設、札幌市民をはじめ北海道民にとって「人と動物と環境をつなぐ絆づくりの場」として象徴的な存在になるよう取り組む。</p> <p>○ 動物園内における展示のあり方</p> <p>動物園における動物展示や環境教育展示には、様々な手法や考え方があるが、これらは時代とともに変化し、その評価も変わっていくため、円山動物園では、展示の目的とそこで提供されるべき価値により優先順位を設定し、その時代ごとに必要とされる展示手法を柔軟に取り入れながらも、着実に上位目的にたどり着けるよう、独自の「段階的展示導入方式（円山メソッド）」を実施する。</p> <p>○ 入園者の利便性の向上</p> <p>入園者にとって、気軽に訪れることができ、くつろぎながら楽しく過ごせる場所となるため、入園者の声に基づいて、現状における不快感を取り除き、入園者のニーズに合った施設づくりを最優先で行う。</p>	<p>9. 施設整備と動物管理</p> <p>(1)計画内容</p> <p>展示方法や施設整備については、長期間にわたって円山動物園のスタンスを表現する重要な要素であることから、ゾーンごとのコンセプトを持ちつつ、以下の方向性にしたがって、計画的に取り組めます。</p> <p>ア 円山エリアにおける一体的な空間創出</p> <p>円山動物園を自然豊かな円山エリアの中核施設としてとらえ、周辺にある施設や設備、自然が相互に存在価値を高めあうような相乗効果を目指します。</p> <p>このことにより、円山動物園が円山エリアの誇りとなるような施設、札幌市民をはじめ北海道民にとって「人と動物と環境をつなぐ絆づくりの場」として象徴的な存在になるよう取り組めます。</p> <p>イ 円山メソッドに基づく展示</p> <p>円山動物園では、展示の目的とそこで提供されるべき価値により優先順位を設定し、その時代ごとに必要とされる展示手法を柔軟に取り入れながらも、着実に上位目的にたどり着けるよう考案した、独自の「段階的展示導入方式（円山メソッド）」に基づき、環境エンリッチメントに配慮した施設整備及び展示を行います。</p> <p>また、飼育動物については、単に珍しい動物を展示するのではなく、各ゾーン・エリアで伝えたいメッセージやテーマを担う動物の「選択と集中」を行い、社会的な役割を担うとともにメッセージを伝えていきます。</p> <p>(注)「環境エンリッチメント」とは、動物福祉の観点から</p>	

現 行	改正案	備 考
	<p>動物達の居住生活環境を豊かにすることである。</p> <p>ウ 入園者の利便性の向上</p> <p>入園者にとって、気軽に訪れることができ、くつろぎながら楽しく過ごせる場所とするため、入園者のニーズに合った施設づくりを行います。</p> <p><段階的展示導入方式（円山メソッド）></p> <div data-bbox="730 545 1355 1342" data-label="Diagram"> </div>	<p><解説></p> <p>この図では、経験の蓄積が上位に進むごとに対象となる客層は絞られてくる一方で、滞在時間は長く、関わりも深くなることを想定しています。</p> <p>優先順位としては、(1)生き生きした動物を見て楽しいと感じる人を増やすことにより入園者を拡大し、(2)よりくつろぎながら、動物に近づいて見ることで滞在時間（味わい、考える時間）を増やし、(3)様々な体験イベントを通じて感動を与え、より深く動物に関わることを通じて、(4)最終的に環境教育につなげていこうという考えです。</p> <p>動物が快適でなければ、そこで行われる環境教育は本物とはいえませんし、お客様がゆっくりくつろげない動物園では、時間をかけて考えたり感動を味わったりすることもできないのです。</p>
	(2) 成果指標	

現 行	改正案	備 考
	新施設や展示内容等について、来園者満足度 80%を目指します。	
<p>(1) 段階的展示導入方式（円山メソッド）の確立</p> <p>環境エンリッチメントや環境教育については多くの動物園で採用されているが、これをつなぐ役割を担うものとして、入園者に配慮した施設づくり（くつろぎスペースの創出）や感動体験型展示（みんなのドキドキ体験等）を、円山動物園の大きな特徴とする。（18 年度～） ※メソッド（method）＝方法・手法のこと</p>	<p>(3)行動計画</p> <p>① 段階的展示導入方式（円山メソッド）の確立</p> <p>円山メソッドは既に確立し、浸透しているため、概念的な整理をしている本項目は廃止</p>	<p>・項目廃止</p>
<p>(2) 環境エンリッチメントの推進</p> <p>円山動物園独自の「段階的展示導入方式（円山メソッド）」の「I. 動物が快適に過ごしやすい環境づくり」は環境エンリッチメントの推進を指す。</p> <p>「環境エンリッチメント」とは、動物福祉の観点から動物たちの居住生活環境を豊かにすることである。古い飼育施設が多い円山動物園では、動物にとって「せまい」「変化がない」「床がコンクリート」など暮らしやすさの面で課題があったため、今後の新築・改築において環境エンリッチメントを進める。（18 年度～）</p>	<p>② 環境エンリッチメントの推進</p> <p>環境エンリッチメントは既に確立し、浸透しているため、概念的な整理をしている本項目は廃止</p>	<p>・項目廃止</p>
<p>(3) 園内の総合的なデザイン</p> <p>これまでの動物園は、動物の展示方法よりも展示動物数や動物舎の拡充整備に重点を置いて増築を繰り返してきたことから、全体のコンセプトやエリアごとのテーマが明</p>	<p>③ 園内の総合的なデザイン</p> <p>各ゾーンのコンセプトはゾーンごとに整理すること、統一的なサインの整備は実施済みであること、園内バリアフリー化については⑩で整理することから、本項目は廃止</p>	<p>・項目廃止</p>

現 行	改正案	備 考
<p>確ではなく、園路はとても複雑な動線となっていた。そのため、入園者を迷わせない動線計画とそれに合わせた統一的なサイン計画を策定する必要がある。</p> <p>また、園内のデザインについては統一的なルール定め、時代に即した見直しを行うとともに、段階的にバリアフリー化を進めていく。(19年度～)</p>		
<p>(4) 園内緑化整備</p> <p>園内の樹木に関しては、老木化や倒木などにより樹木の更新が必要な場合に、本来、円山原始林にある植物に植え替えを行うことにより、周辺の自然環境と一体化した緑化整備を行い、「円山動物園の森（ビオトープ）」と連携した環境教育を行う。</p> <p>また、動物舎の整備に合わせて積極的な緑化計画を作成する。(20年度～)</p>	<p>④ 園内緑化整備〔1,000千円/年〕</p> <p>樹木取扱い基準を策定し、これに基づき、樹木診断を実施し適切に管理するとともに、施設整備に合わせて植樹を実施し、園内の緑化を進めます。</p> <p>腐朽や損傷が著しく倒木の危険性の高いものは計画的に伐採するとともに、これに伴い園内の樹木を更新する場合には、元来、円山原始林にある樹種に植え替えを行います。</p> <p>ビオトープについて、現状分析を実施し、今後の整備・管理運営方針を定めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間樹木診断 50 本、伐採、植樹年間 5 本程度を想定 ・樹木取扱い基準の策定、樹木診断実施、ビオトープの今後の方針について追記
<p>(5) 円山地域整備</p> <p>動物園を中心とした、円山地域の活性化に向けた整備を行う。</p> <p>地下鉄から動物園の間は道路、公園内ともに誘導・案内サインが不足していることから、歩行者が迷わないよう判りやすく楽しいサインを充実させる。</p> <p>円山裏参道については、歩行者の安全を確保するとともに冬季間の除雪を実施するため、歩道の整備（照明含む）とあわせて現在も発生している小動物の輪禍防止のため</p>	<p>⑤ 円山地域整備</p> <p>地下鉄円山公園駅から円山動物園までの間を、歩行者が安全に迷わず歩行することができ、わくわく感をもって来園することができるよう、円山地域住民や関係機関と協議の上で来園ルートを検討し、誘導・案内サイン等の充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・円山川の整備は記載削除（6②に記載）

現 行	改正案	備 考
<p>の横断施設を整備する。</p> <p>円山公園内には、裏参道とほぼ並行して円山川沿いに木道があるが、滑りやすく非常に傷んでいることから補修を行う。</p> <p>円山川については、自然回復事業として、動物園ビオトープへの導水施設整備や、川の水質を回復させるための事業の実施を検討する。(22年度～)</p>		
<p>(6) 北海道・北方圏ゾーン建設</p> <p>地元北海道の動物にもスポットをあて、私たちにとって身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道・北方圏ゾーン」を設ける。同時に、観光に訪れる方々にも北海道の自然の素晴らしさを体験してもらえ、場にする。エゾシカ、オオカミ、ヒグマ、アザラシなど人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。また、地球温暖化による北極圏の環境問題を訴えかけ、環境のための行動を呼びかける。(19年度～)</p>	<p>⑥ 北海道・北方圏ゾーン整備 [2,272,500千円]</p> <p>北海道・北方圏ゾーンは、北海道と北方圏の動物にもスポットをあて、身近なところから環境問題を考えるきっかけにするための施設、観光に訪れた方々に北海道の自然の素晴らしさを体験してもらう施設として、より生息地に近い展示、行動を引き立てる展示を目指します。</p> <p>世界のクマ館を改修し、ホッキョクグマの繁殖基地としての役割を果たすとともに、新たに第二ホッキョクグマ・アザラシ館を建設します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のクマ館改修 22,500千円 ・第二ホッキョクグマ・アザラシ館建設 2,250,000千円
<p>(7) 野性復帰・自然体験ゾーン建設</p> <p>北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥、野生復帰させることに挑戦する。エゾリスやエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元にも取り組んでいく。(19年度～)</p>	<p>⑦ 野生復帰・自然体験ゾーン整備 [44,000千円]</p> <p>野生復帰・自然体験ゾーンは、基本的に非公開とし、猛禽類、ニホンザリガニ等の繁殖技術を確認し、野生復帰を目指します。</p> <p>猛禽類について、繁殖・ストック棟を建設し、個体数を確保しつつ、猛禽類の繁殖技術を確認します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発信器等の購入費 500千円/年 ・繁殖・ストック小屋建設 42,000千円 ・ゾーンコンセプトを追記

現 行	改正案	備 考
<p>(8) 爬虫類・鳥類エリア</p> <p>高い技術に基づく希少動物（絶滅危惧種）の繁殖を通じて、生物多様性の重要性を表現し、動物たちの生息域で起こっている環境問題を考えるきっかけとする。(21年度～)</p>	<p>⑨ は虫類・両生類ゾーンの運用</p> <p>は虫類・両生類館整備済みのため項目廃止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・は虫類は項目廃止 ・鳥類は別項目とする
<p>(9) アジアゾーン建設</p> <p>アジアに生息する動物を集中させ、地理や気候、食性の違いなどアジアの環境の多様性ととも、希少種の保存や生息域の保全の大切さを伝える。(23年度～)</p>	<p>⑩ アジアゾーン整備【80,000千円+アジアゾーン1,273,000千円】</p> <p>地理、気候、食性の違い等、アジアの環境の多様性ととも、希少種の保存や生息域保全の大切さを伝える施設として、アジアゾーンを建設します。</p> <p>各動物舎での案内表示として、薄型ディスプレイを配置し、各動物の情報及び世界の動物園での状況、自然界での状況等を双方向機能も活用し来園者に提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・案内表示 80,000 千円
<p>(10) アフリカゾーン建設</p> <p>アフリカに生息する動物を集中させ、動物たちの共存や食物連鎖を伝えるとともに、ミニサファリ形式による混合飼育を行う。(24年度以降)</p>	<p>⑪ アフリカゾーン整備【1,637,000千円】</p> <p>動物達の共存や食物連鎖を伝えるための施設として、アフリカゾーンを建設します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカゾーンの建設趣旨を明記
<p>(11) 類人猿・モンキーエリアの整備</p> <p>ヒト科の動物であるチンパンジーやオランウータンなどの類人猿は、環境エンリッチメントにより多様な行動を引き出し、群れで生活する中での家族関係や子育て風景、高い知能に基づく遊びなど興味深い行動を見て親しみを持ってもらおうと同時に、一方で森林伐採や開発などにより絶滅の危機にある状況を伝え、人間の行動を考えるきっかけとする。あわせてサル仲間たちの多様な行動や生態、</p>	<p>⑫ 類人猿・モンキーゾーンの整備【62,000千円】</p> <p>チンパンジーやオランウータンなどの類人猿について、環境エンリッチメントにより、群れで生活する中での家族関係や子育て風景、高い知能に基づく遊びなどの多様な行動や生態、希少性を伝える施設として、類人猿・モンキーゾーンを整備します。</p> <p>また、森林伐採や開発などにより絶滅の危機にある状況を伝え、人間の行動を考えるきっかけとするための展示の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モンキーハウス整備 62,000 千円

現 行	改正案	備 考
<p>希少性を伝える。(19年度～)</p>	<p>工夫を行います。</p> <p>モンキーハウスについて、アジアゾーンへの動物の移動に合わせて、環境エンリッチメントに配慮しながら展示スペースを拡大します。</p>	
	<p>⑬ サル山のリニューアル [123,178 千円]</p> <p>サル山は昭和 52 年 10 月に竣工し、平成 18 年 3 月に展望レストハウスを併設し、来園者に楽しんでいただける憩いの場となっていますが、設備の老朽化対策が必要であることから、環境エンリッチメントに配慮し、より動物の生態や行動を引き出し、来園者にニホンザルの生態をより間近で観察いただけるよう施設の工夫を凝らすなど、全般的な改修整備を実施します。</p>	<p>・項目追加</p>
	<p>⑭ 熱帯鳥類ゾーンの拡充 [1,000 千円]</p> <p>南米に生息する種を中心に、熱帯鳥類の種類や展示の充実を図るとともに、来園者がゆったりと憩えるよう、全天候型・開放型の施設の活用を検討します。</p>	<p>・熱帯鳥類の導入費 1,000 千円</p>
<p>(12) ふれあいゾーン建設</p> <p>こども動物園では、動物とのふれあいを通じて「いのちの大切さ」や癒しを伝えるとともに、地元の野性小動物の展示や総合学習の飼育体験受入など環境教育の入口とする。</p> <p>カンガルー館では、有袋類の特異性やスローロリスなど夜行性動物の特徴などを通じ動物の進化と適応を学べるようにする。(19年度)</p>	<p>⑮ ふれあいゾーンの運用 [500 千円/年]</p> <p>こども動物園は、動物とのふれあいを通じて「いのちの大切さ」や癒しを伝えるとともに、地元の野性小動物の展示や総合学習の飼育体験受入等、環境教育の入口となるよう展示します。</p> <p>カンガルー館では、有袋類の特異性やスローロリスなど夜行性動物の特徴等を通じ動物の進化と適応を学べるよう展示します。</p> <p>来園者のニーズの高い動物とのふれあいを実現するた</p>	<p>・ふれあい教室の臨時職員 500 千円/年</p>

現 行	改正案	備 考
	め、「ふれあい教室」の充実を図ります。	
<p>(13) 動物科学館改修</p> <p>現在の動物科学館は、展示物や遊具を固定しているため容易に入替等ができず、故障してもそのまま放置されている遊具・展示物があり、その展示内容も陳腐化しているため、固定展示や常設遊具を撤去し、可動式展示等への転換を図る。(24年度以降)</p>	<p>⑩ 動物科学館の整備 [8,000千円]</p> <p>動物の構造を科学的に展示する施設として、より科学的に骨格標本を展示することによって、教育的効果を向上させます。</p> <p>園内で保存している骨格標本を分類整理した上で収集し、博物館・学校等の教育機関への容易な貸出しを可能にします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格標本収納庫 8,000千円
<p>(14) トイレ・授乳スペースの整備</p> <p>園内には和式のみのお朽化した木造トイレが2か所あり、授乳室も不足している。また、動物とのふれあいにより、数多くの手洗いスペースが必要とされているため、来園者が快適に利用できるようなトイレ・手洗い・授乳スペースを整備する。(19年度～)</p>	<p>⑪ トイレの整備 [53,921千円]</p> <p>来園者が快適に利用でき、ゆっくりと動物園に滞在することができるよう、各トイレにジェットタオルを設置、身体障がい者用トイレを建設、アフリカゾーンにトイレを建設します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェットタオル 20か所 3,200千円 ・身障トイレ 15,721千円 ・アフリカゾーントイレ 35,000千円
<p>(15) 野外ステージ建設</p> <p>野外ステージはゴールデンウィークを中心にキャラクターショーなどのイベントに利用されているが、施設・設備ともに老朽化しており、利用できるイベントが限られているため、建替えを行う。新ステージは、様々なアトラクションやイベントを行うにぎわいの中心施設とし、イベント等のない時にも来園者がくつろげるスペースとして新設する。(24年度以降)</p>	<p>⑫ 野外ステージの整備 [193,930千円]</p> <p>野外ステージは、施設・設備ともに老朽化しており、利用できるイベントが限られているため、建替えを行います。</p> <p>新ステージは、様々なアトラクションやイベントを行うにぎわいの中心施設とし、イベント等のない時にも来園者がくつろぐことのできるスペースとして建設します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・字句整理
<p>(16) コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致</p>	<p>⑬ コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの運営改善</p>	

現 行	改正案	備 考
<p>入園者数及び満足度の向上のため、新たにレストラン、コンビニエンスストア、カフェ、公式グッズ売店を誘致する。(19年度～)</p> <p><期待する効果></p> <p>食環境の充実によるリピーターの定着(レストラン)、都会における休日の過ごし方の提案(コンビニ)、ATMや生活必需品販売による滞在時間の拡大と客単価の向上(コンビニ)公式グッズ展開によるブランド化とライセンスビジネスの成立(ミュージアムショップ)</p>	<p>入園者数の増加及び来園者の満足度の向上のため、アフリカ館を含む動物園内の各店舗について、定期的に利用者アンケートを実施し、これに基づき運営の改善を図ります。</p>	<p>・コンビニ等の運営改善に項目変更し、アンケートに基づく運営改善を追記</p>
<p>(17) 園内交通の整備</p> <p>円山動物園は、南北約700メートル、東西約400メートル、高低差約40メートルの傾斜地であり、お年寄りや障がいのある方にとって園内全てを容易に移動し観覧するのは厳しい状況にあるため、園内のリニューアルに合わせて、来園者の利便性を高めるためバリアフリー対応の周遊観覧交通を整備する。(23年度～)</p>	<p>㊹ 園内交通の整備</p> <p>円山動物園は、南北約700メートル、東西約400メートル、高低差約40メートルの傾斜地であり、お年寄りや障がいのある方にとって園内を移動し・観覧するのは厳しい状況にあるため、園路整備に合わせて、バリアフリー型の園内交通について、交通方式、運営方法等を含めて調査検討します。</p>	<p>・園内交通についてゼロからの検討</p>
<p>(18) 環境にやさしい施設への転換</p> <p>施設そのものも環境教育の教材となるよう「環境にやさしい施設」を目指して、円山動物園における資源やエネルギーの効率的活用を行う。(19年度～)</p> <p><具体的な取組></p> <p>水や熱の循環設備の導入による省エネ・水資源節約、新エネルギー・自然エネルギーの積極的な活用、園内で排出されるフンやごみの再資源化、環境教育のため園内のごみ分別を家庭ごみ分別方式へ転換、ごみ箱を増設</p>	<p>21 環境にやさしい施設への転換〔280,564千円〕</p> <p>施設そのものも環境教育の教材となるよう「環境にやさしい施設」を目指して、重油ボイラーからガスボイラーへの熱源転換、アジアゾーン及びアフリカゾーンへの水循環設備の導入を実施します。</p>	<p>・熱源転換、水循環設備導入を追記</p>

現 行	改正案	備 考
<p>(19) エントランス機能の充実</p> <p>動物がいそうな雰囲気演出し、楽しさや期待感を感じさせる、より魅力あるエントランスにすべく正門・西門の整備を行う。また、新たに南側入園口機能の整備を行い、円山西町住宅街からのアクセスを向上させる。(22年度～)</p>	<p>22 エントランス機能の充実【●千円】</p> <p>動物がいそうな雰囲気演出し、楽しさや期待感を感じさせる、より魅力あるエントランスにすべく正門・西門の整備を行うとともに第一駐車場の案内サインの整備を行います。また、駐車場の建設費を償還した後の駐車料金について検討します。</p> <p>南側入園口の活用の可能性について、調査検討を行います。</p> <p>業務の効率化のため、券売の自動化について検討します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一駐車場の案内サイン整備・料金検討を追記 ・南門はバスによる来園対応等の観点から検討 ・券売の自動化検討を追記
<p>(20) 臨時駐車場の確保</p> <p>円山動物園は近隣に大規模な民間駐車場がないため、繁忙期には最大3時間待ちの渋滞を招いている。今後、入園者数100万人を達成するにあたり、公共交通の利用促進のほか、ピーク時の駐車場対策についても検討を進める。(23年度～)</p> <p>〈駐車場対策の具体例〉</p> <p>民間駐車場・近隣公共施設の駐車場からのピストンバスの運行、歩道アクセスや遊歩道表示の改善・地下鉄とのセット券販売による公共交通機関の利用促進</p>	<p>23 臨時駐車場の確保等</p> <p>ピーク時の駐車場対策として、パークアンドライドが可能な駐車場を所有する企業等について調査を行います。</p> <p>公共交通機関と動物園の共通割引券を開発し、公共交通機関の利用を促進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パークアンドライドの検討を追記
<p>(21) 飼育動物の考え方</p> <p>円山動物園では園内をゾーン・エリアに分け、各ゾーン・エリアにテーマと伝えるべきメッセージを設定する。飼育動物については、コレクション的に種類を増やすのではなく、このテーマとメッセージを担うべき動物の「選択</p>	<p>24 飼育動物の考え方</p> <p>飼育動物の考え方は、各ゾーンのコンセプトに記載することとしたため本項目は廃止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・項目廃止

現 行	改正案	備 考
<p>と集中」を行う。このことにより、単に珍しい動物を展示する動物園ではなく、社会的な役割を担いメッセージを伝える「本物の動物園」を目指す。(18年度～)</p> <p>なお、アジアゾウの新規導入については、繁殖可能なゾウ舎を建設する必要があり、建設費や人件費を含め多額な経費がかかることから、市民議論を行い導入の可否を検討していく。(19年度～)</p>		
	<p>25 ゾウ導入調査〔24,000千円〕</p> <p>ゾウを飼育し展示することは、来園者数の増加につながるのみならず、環境教育の推進、親子の絆、いのちの大切さ等、教育的な意義があることから、獣舎の建設費用、維持管理費用を合わせて示した上で、市民に対しアンケート調査を実施し、導入の是非を判断します。</p> <p>導入する場合には、基本計画を策定し、将来的な導入の準備を行います。</p>	<p>・新規項目</p>
	<p>26 自然災害対策〔●千円〕</p> <p>冬期間に、大震災等により長期間、停電となった場合等に飼育動物の生命を維持するため必要な自家発電装置及び暖房設備を整備します。</p>	<p>・新規項目</p>